

平成 28 年京都府鋳工業指数の動き

生産は5年連続で上昇し、高水準で推移

府企画統計課産業統計担当

はじめに

京都府では、府内の鋳工業の月々の生産活動の動向を明らかにすることを目的として「京都府鋳工業指数」を毎月作成し、公表しています。

この鋳工業指数は、景気の動きに敏感に反応するため、景気変動を読みとることができる指標として各方面で活用されています。

今回、平成 28 年 1 月分から 12 月分の実数値を最終確定値に置き換え、原指数の確定と季節指数の改定、季節調整済指数の再計算を行いました。

なお、各品目の系列資料は「経済産業省生産動態統計調査」及び「京都府鋳工業生産動態統計調査」等によっています。

(注 本文記載のデータ中、年平均は原指数、四半期は季節調整済指数の数値です。)

指標からみた鋳工業の動き

1 概要

(1) 生産指数

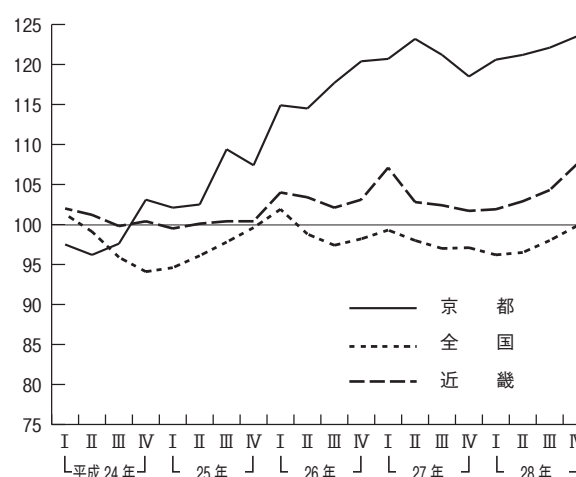
京都府鋳工業指数のうち生産指数は、平成 24 年末以降は、スマートフォン関連や太陽光関連の生産が増加し、持ち直し傾向で推移し、平成 26 年以降は消費税引上げや輸入物価の上昇等を受けて弱さが見られる局面もありましたが、海外向けスマートフォン向けの需要が概ね好調な電子部品・デバイス工業等がけん引し、全体として高水準で推移しました。

平成 28 年の生産指数（平成 22 年 =100）は、前年比 0.9% 上昇の 121.8 で 5 年連続で上昇しました。

環境計測機器とフラットパネル・ディスプレイ製造装置を含む、はん用・生産用・業務用機械工業がけん引し、全体として引き続き高水準で推移しました。

京都府の動きを四半期別にみると、1～3 月期は 120.6 で前期比 1.8%、4～6 月期は 121.2 で同 0.5%、7～9 月期は 122.1 で同 0.7%、10～12 月期は 123.5 で同 1.1% と 4 期連続で上昇しました。

図 1 京都・全国・近畿の鋳工業生産指数の推移 (H22=100 季節調整済)



注 Ⅰ期・・・1月～3月、Ⅱ期・・・4月～6月、Ⅲ期・・・7月～9月、Ⅳ期・・・10月～12月（以下のグラフ同じ）

全国の平成 28 年の生産指数は 97.7 で、前年比 0.1% の低下となり、2 年連続で低下しました。全国の動きを四半期別にみると、1～3 月期は 96.2 で前期比 0.9% の低下したあと、4～6 月期は 96.5 で同 0.3%、7～9 月期は 98.0 で同 1.6%、10～12 月期は 99.8 で同 1.8% と 3 期連続の上昇となりました。

近畿の平成 28 年の生産指数は 104.1 で、前年比 0.7% の上昇となり、3 年連続で上昇しました。近畿の動きを四半期別にみると、1～3 月期は 101.9 で前期比 0.2%、4～6 月期は 102.9 で同 1.0%、7～9 月期は 104.3 で同 1.4%、10～12 月期は 107.5 で同 3.1% と 4 期連続で上昇となりました。（図 1、表 3）

京都府の業種別の動きを前年比でみると、5 業種で上昇、9 業種で低下しました。

最も上昇に寄与した業種は、はん用・生産用・業務用機械工業で、4 年連続の上昇となりました。続いて、食料品・たばこ工業やその他工業が上昇に寄与しました。

低下に寄与した業種は、電気・情報通信機械工業、電子部品・デバイス工業や輸送機械工業でした。繊維工業は、引き続き低下で推移しています。

(図2、表1、表2)

京都府の財別の動きをみると、資本財、非耐久消費財及び建設財が上昇し、生産財と耐久消費財が低下しました。

(図9、表1)

(2) 出荷指数

平成28年の京都府の出荷指数(平成22年=100)は前年比2.0%上昇の108.3となり4年連

図2 京都府鉱工業生産指数(原指数)業種別寄与度の推移

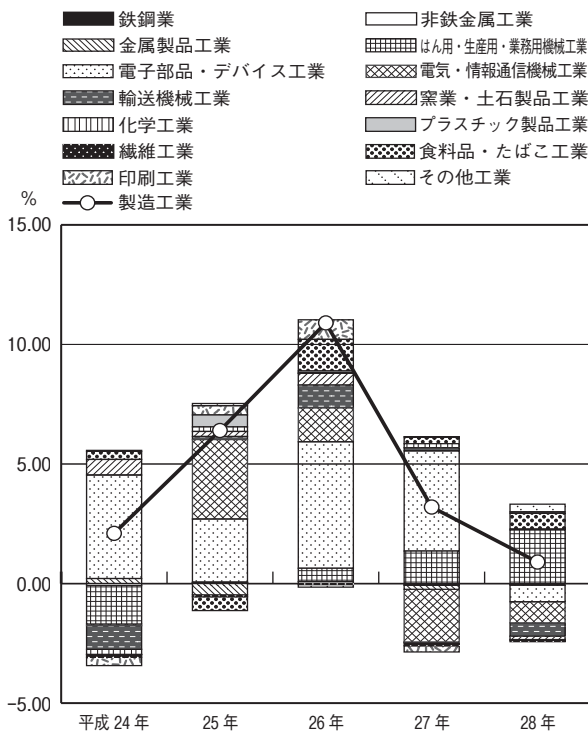
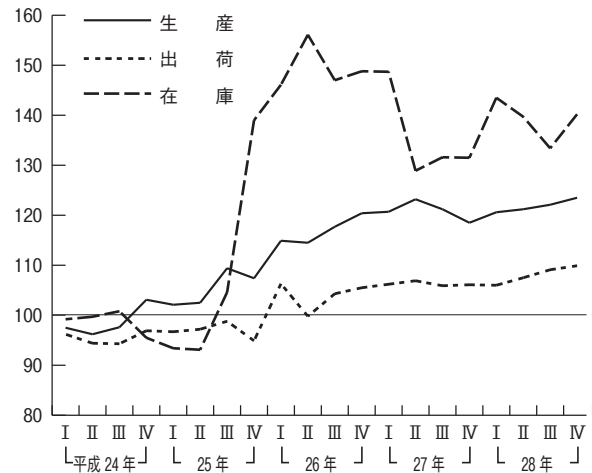


図3 京都府鉱工業指数の推移(H22=100 季節調整済)



続で上昇しました。

業種別の動きを前年比でみると6業種で上昇、8業種で低下しました。上昇に寄与した業種は、はん用・生産用・業務用機械工業、食料品・たばこ工業や電子部品・デバイス工業でした。

(図3、表1)

(3) 在庫指数

平成28年の京都府の在庫指数(平成22年=100)は前年比7.1%上昇の140.1となり2年ぶりに上昇しました。

業種別の動きを前年比でみると、6業種で上昇、7業種で低下しました。上昇に寄与した業種は、食料品・たばこ工業や電子部品・デバイス工業でした。

(図3、表1)

表1 京都府鉱工業指数(原指数)業種別、財別寄与度

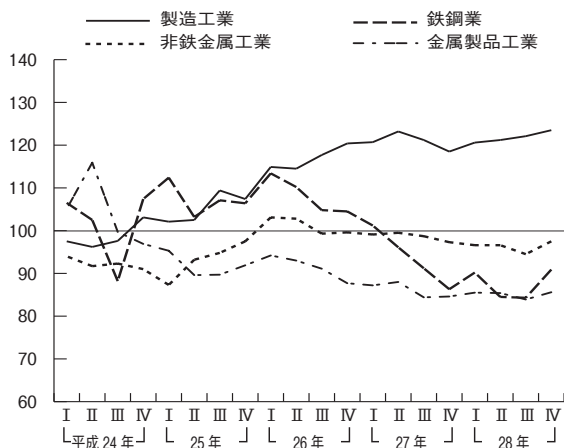
項目	系列・年					生産指数					出荷指数					在庫指数				
	平成24年	25年	26年	27年	28年	平成24年	25年	26年	27年	28年	平成24年	25年	26年	27年	28年					
製造工業(対前年比%)	2.10	6.40	10.90	3.20	0.90	△1.70	1.10	7.30	2.10	2.00	△9.80	46.00	6.10	△10.70	7.10					
業種別	鉄鋼業	0.00	0.03	0.00	△0.05	△0.02	△0.01	0.06	0.02	△0.05	△0.06	X	X	X	X	X				
	非鉄金属工業	△0.08	0.01	0.08	△0.02	△0.02	△0.15	△0.01	0.11	△0.02	△0.02	0.11	0.18	0.21	0.20	0.28				
	金属製品工業	0.21	△0.47	0.00	△0.17	△0.02	0.12	△0.09	0.06	△0.17	△0.02	0.90	0.83	0.49	△0.13	△0.38				
	はん用・生産用・業務用機械工業	△1.61	0.02	0.56	1.36	2.24	△1.31	0.03	0.28	1.65	2.59	△1.51	△4.78	△0.03	0.56	△1.09				
	電子部品・デバイス工業	4.33	2.64	5.29	4.19	△0.70	2.39	0.95	2.69	2.44	0.74	1.15	33.49	△1.13	△0.31	1.46				
	電気・情報通信機械工業	△0.07	3.32	1.41	△2.20	△0.88	△1.33	1.46	0.40	△1.79	△1.03	△9.65	13.06	4.62	△8.89	△0.49				
	輸送機械工業	△0.99	0.13	0.96	0.13	△0.56	△1.55	1.26	1.34	△0.89	△1.45	X	X	X	X	X				
	窯業・土石製品工業	0.65	0.21	0.49	△0.01	△0.14	0.35	△0.02	0.23	0.05	△0.22	△1.28	△0.46	2.03	△0.73	△0.09				
	化学工業	△0.21	0.19	0.02	0.17	0.04	△0.15	0.13	0.04	0.13	0.06	△0.43	0.51	△0.19	0.07	0.18				
	プラスチック製品工業	△0.02	0.50	0.08	△0.03	△0.03	△0.03	0.49	0.06	△0.07	△0.03	0.60	△0.41	0.13	0.91	△0.40				
	繊維工業	△0.10	△0.08	△0.04	△0.12	△0.06	△0.08	△0.04	0.01	△0.08	△0.04	△0.20	0.37	△0.26	△0.25	0.34				
	食料品・たばこ工業	0.34	△0.58	1.32	0.28	0.66	0.47	3.83	1.12	1.25	0.88	0.45	1.41	△0.62	△0.19	7.34				
印刷工業	△0.35	0.39	0.82	△0.26	0.06	△0.41	0.48	1.10	△0.35	0.09	-	-	-	-	-					
その他工業	0.04	0.09	△0.11	0.01	0.32	0.05	0.14	△0.14	0.04	0.48	△0.09	0.69	0.97	△1.06	△0.28					
財別	資本財	△1.29	0.35	0.72	1.90	2.17	△1.03	0.33	0.55	2.20	2.34	△1.20	△1.52	1.11	△1.25	△1.12				
	建設財	0.03	0.08	△0.10	△0.01	0.23	0.03	0.07	△0.11	△0.01	0.34	0.05	△0.05	0.17	△0.13	0.33				
	耐久消費財	△0.16	3.21	0.48	△1.64	△0.90	△1.53	2.95	0.06	△2.55	△1.50	△9.34	4.88	3.08	△6.25	0.48				
	非耐久消費財	0.06	△0.48	1.43	0.37	0.77	0.32	△3.69	1.23	1.34	1.01	△0.44	2.85	△0.47	△0.51	6.24				
	生産財	3.48	3.19	8.35	2.62	△1.36	0.57	1.30	5.61	1.14	△0.20	1.10	39.88	2.17	△2.59	1.19				

2 業種別生産指数の動向

(1) 金属工業

鉄鋼業は88.0で前年比6.2%低下、非鉄金属工業は96.4で同2.1%低下、金属製品工業は85.3で同0.8%低下となりました。(図4、表2)

図4 京都府鉱工業生産指数 業種別の推移 (H22=100 季節調整済)



(2) 機械工業

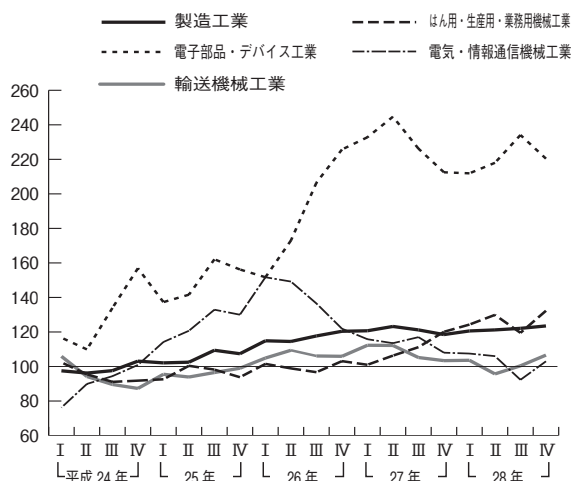
はん用・生産用・業務用機械工業は125.6で前年比15.0%上昇となりました。環境計測機器、フラットパネル・ディスプレイ製造装置や金型が上昇に寄与しました。

電子部品・デバイス工業は221.5で同2.8%低下し、7年ぶりに低下となりました。混成集積回路等が低下に寄与しました。

電気・情報通信機械工業は102.6で同9.7%低下となりました。太陽電池モジュール等が低下に寄与しました。

輸送機械工業は101.1で同6.6%低下となりま

図5 京都府鉱工業生産指数 業種別の推移 (H22=100 季節調整済)



した。自動車エンジンや乗用車が低下に寄与しました。(図5、表2)

(3) 繊維工業

繊維工業は74.0で前年比3.6%低下となりました。絹・絹紡織物、綿・絹・絹紡織物染色整理や合成繊維織物が低下に寄与しました。

(図6、表2)

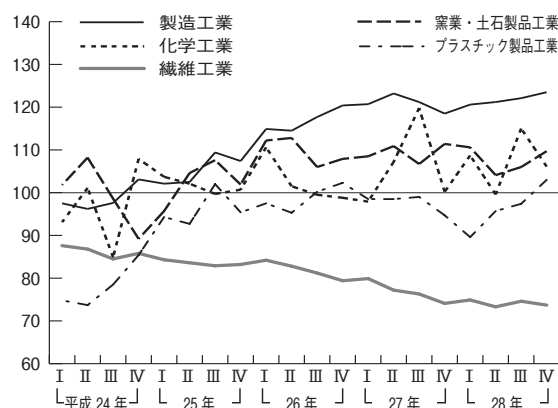
(4) その他の業種

窯業・土石製品工業は107.2で前年比2.1%低下となりました。

化学工業は107.5で同1.0%上昇となりました。

プラスチック製品工業は96.4で同1.3%低下となりました。(図6、表2)

図6 京都府鉱工業生産指数 業種別の推移 (H22=100 季節調整済)



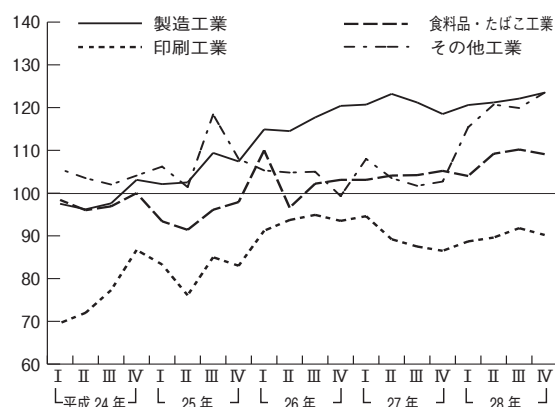
食料品・たばこ工業は108.9で同4.3%上昇となりました。たばこ、第3のビールやビール・発泡酒が上昇に寄与しました。

印刷工業は90.3で同1.1%上昇となりました。

その他工業は120.5で同16.0%上昇となりました。合板等が上昇に寄与しました。

(図7、表2)

図7 京都府鉱工業生産指数 業種別の推移 (H22=100 季節調整済)



3 財別生産指数の動向

財別の動向をみると、最終需要財のうち、投資財は上昇、消費財は低下しました。また、生産財は5年ぶりに低下となりました。

投資財についてみると、資本財は125.7で前年比12.5%の上昇、建設財は134.2で同30.7%上昇となりました。

消費財についてみると、耐久消費財は98.0で同25.1%低下し、非耐久消費財は109.4で同4.6%上昇となりました。

生産財は126.0で同2.2%低下となりました。

(図8、図9、表2)

図8 京都府鉱工業生産指数 財別の推移 (H22=100 季節調整済)

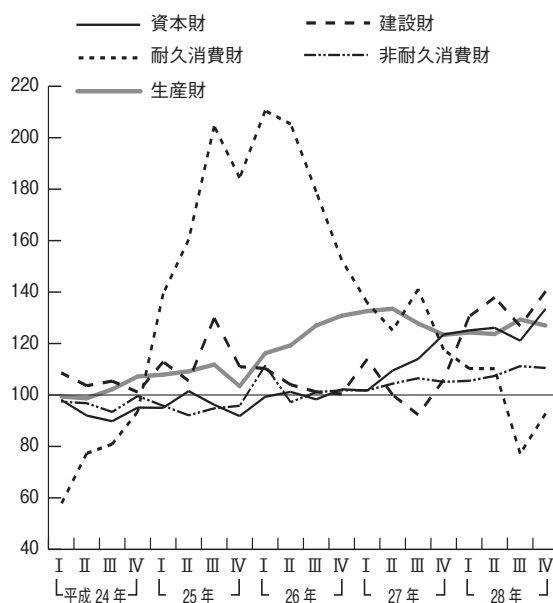
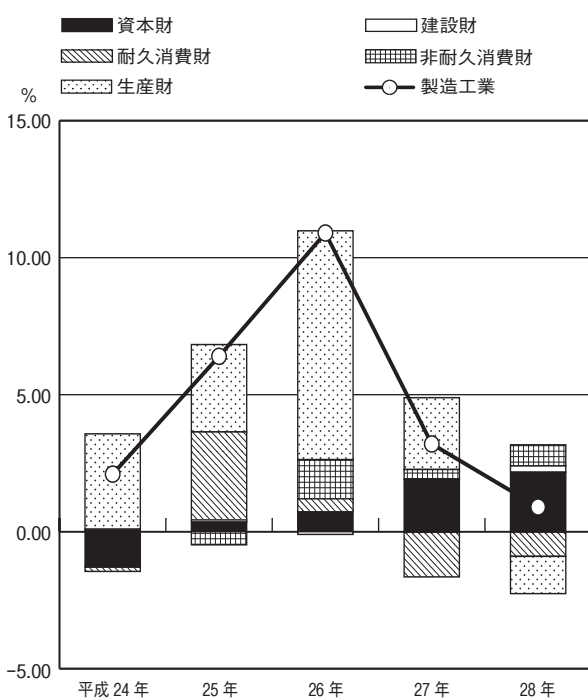


図9 京都府鉱工業生産指数(原指数)財別寄与度の推移



○寄与率と寄与度について

総合指数の上昇(低下)に対して、その内訳である業種別や財別の影響度合いがどれだけであったかについて、その構成比を計算したものを寄与率といい、さらに総合指数の上昇(低下)率を寄与率に配分したものを寄与度といいます。寄与率、寄与度は次のように定義されます。

寄与率

$$\text{寄与率} = \frac{\text{各業種(財) 指数のポイント差} \times \text{各業種(財) のウェイト}}{\text{総合指数のポイント差} \times \text{総合のウェイト}} \times 100$$

寄与度

$$\text{寄与度} = \text{総合指数の対前年上昇(低下)率} \times \text{各業種(財)の寄与率} \div 100$$

○季節調整法について

鉱工業指数の季節調整法は原指数に含まれる季節変動の要因を取り除くため、センサス局法(X-12ARIMA)を用いています。具体的な季節調整済指数の算出方法は次のとおりです。

$$\text{季節調整済指数} = \text{原指数} \div (\text{季節} \cdot \text{曜日} \cdot \text{祝祭日} \cdot \text{うるう年指数})$$

季節調整法スペックファイル (Spec File)

```
series{ start = 2009.1
        span = (2009.1, 2016.12)
        decimals=1 }
transform{ function = log }
arima{ model = (011) (011) }
regression{variables = (td1 nolpyear lpyear)
            save = (td hol)
            user = (jap - hol)
            usertype = holiday
            start = 2009. 1
            file = "xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx" }
forecast{ maxlead = 12 }
estimate{ save = (mdl)
          maxiter = 500 }
X11{ print = (none + d10 +d11 +d16)
     save = (d10 d11 d16)
     seasonalma=x11 default }
```

(注 在庫の場合はregressionの{ }内を削除)

平成28年年間補正において、異常値処理を行った種別、年月は以下のとおり。

鉱工業指数系列	異常値種別	処理年月
生産・出荷	-	-
在庫	LS (level shift)	2013.12

○基準改定について

鉱工業指数は、採用品目やウェイト構成を基準時で固定しているため、基準時から遠ざかるにつれて、産業構造の変化や生産品目の種類及び価格の変動等により、実態を反映しにくくなる傾向があります。このため従来から5年ごとに基準時を更新しています。現行は平成22年基準で、平成25年9月分(速報)(平成25年11月公表分)から更新しています。